

悪夢は遠く去った。私も無線通信部を去り、中央でORの集中訓練を受け、北海道電気通信局でORを業務に適用する任に専従することになった。電子計算機で再生方程式を処理する需要予測方法が完成し、昭和42年に論文となり、電気通信学会から出ると米国航空宇宙局の目にとまり、おほめの手紙をいただいた。掉尾を飾ったのである。

回顧すると、当初、中央の認識では、それは遙かな辺境での出来事であった。その故あってか、北海道には何かとハングリーがつきまどった。私は独力でORを学び、蛮勇をふるってそれを真剣勝負の修羅場で活かさねばならなかった。だが、互いに一目おきあった頼れる相棒たちとよく頑張る現場の技術者たちがいて、私のたて

た奇天烈な作戦計画を実行する腕力を提供してくれた。当時ORが得た最大の味方は、それを敢えてやろうとするものへの上司や相棒たちや現場の技術者たちの“許諾”であった。そして、しかるべく下部へ権限をおろし、研究的な事を思いきってやらせるという、大いなる度量とバックアップが上部の管理者層にあったことである。

平成2年、NTTを訪ねた時、今は立派な管理者となっておられる方が「ああ、進行波管の浅利さんですね。おぼえていますよ」といつてくれた。私は深々と頭を下げて30年昔の現場マンに敬意を表したのである。

星移り、時変わったが、進行波管たちは高度情報通信時代の担い手として、全世界で今も元気に働いている。

## 【ニュース】

# フィリピン学会 IFORS に加盟

フィリピンOR学会 (ORSP) が IFORS に加盟した。フィリピンOR学会は1987年に発足。会員約100名。大部分が企業人で、10%程度が工学部や経営学部属する大学関係者。かねてから IFORS への加盟を希望していたところ、このたび加盟各国の投票という過程を経て、加盟が正式に認められたものである。

もちろん、われわれの APORS (アジア・太平洋地区OR学会連合) にも直ちに加入という運びになるので、さる6月ギリシャ・アテナ市の IFORS 国際会議のさいに行なわれた APORS 理事会にも会長の del Rosario 夫人 (写真) が出席された。

夫人は父親が中国系の方で、AIT (=Asian Institute of Technology, Bangkok) 出身、コンサルタント関係の会社に勤めておられる。夫君もまた別のコンサルタント会社を経営しておられるとのこと。大変熱心にフィリピンOR学会のPR活動しておられた。

フィリピンOR学会は来たる12月にはマニラでOR



と経営科学に関する国際会議 (1990 International Conference on Operations Research/Management Science) の開催を準備しており、ぜひ参加してほしいとの希望を APORS の理事会でも、IFORS の総会でも各国に訴えておられた。

(柳井)